

図書館本館  
ギャラリー利用者募集

— 趣味の作品やコレクションを展示しませんか —

《対象》 市内で活動する個人またはグループ  
※販売目的不可

《展示期間》 平成30年4月～9月までの間の1ヶ月間

《場所》 図書館本館 2階ギャラリー

《申込》 10月1日(日)～29日(日)までの間に  
申請書を図書館本館までご提出ください。  
(申請書は図書館本館にあります。)

休館日

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■ は本館の休館日です

9月のギャラリー

『道路老朽化対策パネル展』

期間：9月2日(土)～28日(木)  
提供：碧南市土木課  
※ギャラリーの展示は17時までです

編集後記

今回、敬老の日にちなんで本を集めました  
が、年代に関係なく、楽しく、ためになる本が  
たくさんありました。あらためて、本を読むと  
様々なものの見方や考え方に気づかされます。  
気づくといえば、最近肌当たる風が変わり、  
秋が近づいてきたような気がします。読書  
はもちろん運動や旅行など、みなさんにとって  
充実した秋になるといいですね。(か)

けやきどおり通信 (No.288)

編集・発行 碧南市民図書館

〒447-0057  
碧南市鶴見町1-70-1  
Tel: (0566) 41-0894



けやきどおり通信



2017年9月 ~NO. 288~



敬老の日



読書のすすめ

～心ゆたかに生涯読書～

「本を読むと若くなる」といわれます。  
読書が心の健康に役立つからです。本を読むことが、頭の体操になるからです。  
「本を読むと美しくなる」ともいわれます。  
すぐれた本といっしょに呼吸し、心を豊かに働かせている人は、自然に目の輝きが  
まして、自信のある顔立ちになるのでしょう。

(『敬老の日 読書のすすめ 2017』 読書推進運動協議会パンフレットより抜粋)

〈 こんな暮らし方、生き方をしてみたい——。〉

そう思えるような本が、特集コーナーにあるかもしれません……。

「**奔走老人**」

谷川 洋/著 ポプラ社 (372ホ)

妻に先立たれ、介護していた義母も亡くなり、子どもたちは自立。定年後、第二の人生を一人で迎えた男は、学校をつくるためにアジアの山奥へ飛び立った——。12年間で220以上の学校を作った元商社マンの体当たりノンフィクション。楽しみながら社会貢献する、第二の人生のすすめ。

「**世界でもっとも貧しい大統領  
ホセ・ムヒカ**の言葉」

ホセ・ムヒカ/述 佐藤 美由紀/編  
双葉社 (519セ)

世界でもっとも貧しい大統領と呼ばれた、ウルグアイ第40代大統領ホセ・ムヒカ。彼が注目されるきっかけとなった、2012年リオ会議での「もっとも衝撃的なスピーチ」の全文と彼の言葉や思想を解説。豊かさとは何かについて考えさせられる一冊。

「**みつえばあちゃんとボク**」

岡野 雄一/著  
西日本新聞社 (916ミ)

“ちょいぼけ”のみつえさんと孫のまーくんが、坂の町・長崎とともに暮らす日々を『ペコロスの母に会いに行く』の著者が詩情豊かに描く。みつえさんやまーくん、そして二人を囲む人々のことばに、心温まる作品。

「**孫と私の小さな歴史**」

佐藤 愛子/著  
文藝春秋 (914サ)

直木賞など数々の文学賞を受賞した作家・佐藤愛子がコギャルになった!? 年賀状用にと、孫娘・桃子と二人で扮装して撮影した秘蔵写真を全公開。お正月早々、人々を驚愕させた写真の数々は、ファンならずとも一見の価値あり。

「**九十歳。何がめでたい**」 佐藤 愛子/著 小学館 (914サ)

「怒れる作家」とも称される著者が、九十歳を過ぎた自身の身体に起こる故障や、現代社会に対して感じた嘆きや怒りなどを綴った痛快エッセイ。人生をたくましく生きるための格言が詰まった一冊。

「**初女さんのお漬物**」 佐藤 初女/著 主婦の友社 (596.3ハ) 暮らし

助けを求める人々を無条件に受け入れ、食事と生活をともにして再出発を支える場所「イスキア」を開いた“初女さん”。多くの人を癒したであろう彼女の漬物レシピと、漬物作りを通して伝えたかったメッセージがこめられた一冊。

「**角野栄子の毎日いろいろ**」 角野 栄子/著 KADOKAWA (910カ)

『魔女の宅急便』など多くの児童文学を生み出してきた作家・角野栄子が実践する人生を明るく、色鮮やかに生きるための「衣」・「食」・「住」にまつわるレシピ集。

「**無意味な人生など、ひとつもない**」  
五木 寛之/著 PHP研究所 (914イ)

この世界には、無意味な存在や人生などひとつもない。誰もがかけがえのない存在である——。生きることに悩み、苦しんでいる人たちに送る、著者渾身のメッセージ集。

「**ヒマ道楽**」  
坪内 稔典/著 岩波書店 (914ツ)

忙しくてストレスを溜めている人は、「自分はヒマだ」と自覚する。そうすれば、ストレスから解放されて人生がより楽しくなるという、俳人ねんてん先生のエッセイ集。

「**美しいものを**」 花森 安治/画 暮しの手帖社 (726.5ウ)

「**小林カツ代伝 私が死んでもレシピは残る**」 中原 一步/著 文藝春秋 (289.1コ)

「**リーチ先生**」 原田 マハ/著 集英社 (Fハ)

西洋と東洋の芸術の架け橋となったイギリス人陶芸家バーナード・リーチ。今でも、縁のある窯元では彼のことを「リーチ先生」と呼び、敬愛している。そんな彼が、白樺派の柳宗悦らと出会い、新しい陶芸の世界を切り拓こうと邁進する姿を、弟子たちの視点で描いた感動の物語。

「**眩(くら)**」 朝井 まかて/著 新潮社 (Fア)

天才絵師・北斎の娘、葛飾応為。父に「美人画では敵わない」と言わせる程の力量であったが、現存する作品は少なく、その名はあまり知られていない。父の作品制作を手伝いながらも、自分だけの光と色を追い求め、ついに西洋の陰影表現を用いた傑作「吉原格子先之図」に至るまでの生涯を、圧倒的なリアリティで描き出す。

「**でんでら国**」 平谷 美樹/著 小学館 (Fヒ)

陸奥の小藩・外館藩にある大平村には、60歳になると食い扶持を減らすために山へ入る習わしがあった。ある日、飢饉があっても年貢を納められる大平村には口減らし以外に重大な秘密があるのでは、と代官所は疑念を抱く。真実を暴こうとする代官所と老人たちの知恵比べが始まる……。

「**週末介護**」 岸本 葉子/著 晶文社 (914キ)

仕事との両立、家族間での意見調整、親の変化への覚悟など、介護の中で起こるさまざまな出来事について、著者の考え方や実践してきたことを、柔らかな筆致で綴った介護エッセイ。親や自分の老後が気になり始めた人におすすめの一冊。